

## 第7回区民車座集会意見交換内容

※ 読みやすさ等のため、文意を損なわない範囲で、重複表現、言い回しなどを整理しています。

- 1 開催日時 平成26年7月22日(火) 午後7時から午後9時まで
- 2 場所 宮前区役所4階会議室
- 3 参加者等 参加者29名、傍聴者45名
- 4 概要

### (1) 市長挨拶

**市長：**皆さんこんばんは。今日は平日の夕刻にお集まりいただきまして本当にありがとうございました。今日で第7回目、宮前区が一巡目の最後になります。この間ずっとやってきて非常に有意義な御意見御質問をいただいております。なるべくその場で、私の言葉でお答えすることを基本にしています。詳しいことがその場でわからない場合は後日しっかりとお答えさせていただきたいと思っておりますし、そのことについてホームページなどで発表していくという形でやっております。

車座集會をやらせていただいて、御質問者と私の相対のやり取りだけではなく、副次的な良い効果が生まれてきていると思います。幅広い課題について参加者の皆さんが問題を共有し、こんな課題もあったのか、こういうことは初めて聞いたという事、御自身の関心じゃない事も知っていただいて、それについてみんなで考えるきっかけにもなっていると思います。終わった時に僕の答えというよりもみんなで課題がわかったという思いを持って帰られる方が非常に多い気がしていますし、今日もそういった機会になればと思っております。

現場と対話主義をモットーにしていますが、今、川崎市がこれから10年間こうやっていきますよという総合計画を作り始めていて、その計画の一番最初の段階から市民のみなさんに入っていたとくという新しい試みを始めました。無作為抽出で宮前区内の人達600人を抽出し、その中から検討会に入ってもいいという方に30人応募していただき、いろいろな検討をしていただいています。一昨日も朝から夕方遅くまでその方々にこの宮前区の課題について議論をしていただきました。初めて会った10代から80代までの方がいろいろなことについて議論し、そこで出てきた答えというのは、非常に皆さんの中で納得感のあるものになっている。私はこういうことが重要だと思っています。車座集會もそうですし総合計画の事もそうですけれども、市民・区民がまちづくりに積極的に参加する姿勢が大事だと思っていますので、今日もそういった場になればと思っております。どうかよろしくお願い致します。

### (2) 意見交換

#### A 教育について

**徳生さん：**皆さんこんばんは。私の意見は、中学校給食の推進を是非お願いします、応援しております、ということです。

私も20年前は中学校のPTAでした。そのころ、なんで中学校に給食がないのという要望をしましたが、学年の先生止まりで、作るのにお金がかかるということで終わってしまい中学校を卒業してしまいました。小学校でバランスのとれた給食を食べてうちの子の偏食もそこで助かっていたというのがありますが、体ができる大切な中学校の時期に、親が真心込めたお弁当も大事ですが、お母さんは毎日真心込めておうちでご飯を作っているものですから。お母さんがお弁当を作ると、栄養のバランスよりも子供が残さないで食べてくれるものに偏ってしまうので、やはり中学校の体ができるときに、バランスのとれた、温かい物は温かいままに冷たいものは冷たいままに食べられるといいなと長年思っておりましたので、是非応援していますので推進をお願い致します。以上です。

**櫻谷さん：**櫻谷と申します。

市長は川崎を最も幸の多いまち、最幸のまちにと要望されています。これの実現にあたっては行政の力のみならず、市民各層、つまり老壮青の協働作業、つまり協力をして働いて作り上げていくということが冒頭の市長の話でもありましたが、極めて大事なことだと思います。この基本スタンスの下で、私はシニア世代ということで、全国初の有償ボランティア制度と地域の寺子屋についてお尋ねします。我々シニア世代は時間的な余裕が生まれたことから、今までお世話になった社会や地域に対し何らかの形で恩返しをしたい、あるいはお役に立てることがないかと常に考えております。シニア世代の知識や経験を活かせる事は、次世代の子供のためのみならず、シニア世代の生きがいにも繋がるものです。その上で、こういった潜在的なシニア世代のニーズに対し、行政としてどのような仕組みや仕掛けで制度とマッチングさせていくのか、いかにシニアのパワーを取り込んでいくのか是非御教示いただきたいと思います。たぶんNPO法人やボランティアサークル等々で活躍されている方がいっぱいいると思いますが、私自身は何の資格もなく寺子屋でお役に立てることもないのですが、例えば運営の裏方なんかでもお役に立てることがあるのではないかと考えております。是非ともシニア世代のニーズを掘り起こし、全国初の自治体有償ボランティア制度および地域の寺子屋を名実ともに成功させて、川崎を一步先へ、繋げていただけるよう期待しております。よろしく申し上げます。

**小松さん：**有馬に住んでいます小松と申します。私は長男がダウン症で、県立麻生養護学校の高等部の3年生です。また、2歳違いの次男が市立高津高校の1年生に在籍しております。

2人の子育てを通して、今、親子ともに子育ての困難を抱えている方たちが増えていると感じています。教育・福祉・医療が連携してこの方達をぜひ支援していただきたい。また、その地域が学校を核として、子供たちが社会から必要とされている実感を得られるような地域づくりというのも、親子の手助けになると考えています。その中でぜひ進めていただきたいのが、今、教育委員会で進めている児童支援コーディネーターの拡充をよろしく申し上げます。今川崎の小学校の三分の一ほどに配置されていますが、とても良い効果が得られているので、是非これを近い将来全校配置してください。予算がつけばできることです。その結果、自己有用感、肯定感を持って育つ子供が増えると私は確信しています。どうか宜しくお願い致します。

**中濱さん：**こんばんは。菅生六丁目の中濱です。

来年4月から教育委員会制度改正になりまして、教育委員会制度改革が成立しまして、市長の意向が教育の場に反映されやすくなると思います。小中一貫校教育の進め方について、どのようなお考えをお持ちか聞かせていただきたいと思います。よろしく申し上げます。

**伊藤さん：**神木本町の伊藤と申します。よろしく申し上げます。

私が今日お話ししたいのは、川崎市立小学校と中学校の全図書館に、学校司書さんを専従で配置することです。菅生中学校で私は学習支援プラスワンのコーディネーターを担当して、今年6年目に入り、学習支援の成果が上がっています。あともう一つボランティア活動としては、13年間にわたって小学校で図書ボランティア活動もしてきました。学習支援と違って常駐の司書がない図書室でのボランティア活動は、大きな問題を抱えたまま今日にきています。つい先週の金曜日、市議会の総務委員会で、市内全区の学校図書ボランティアが提出した全小中学校の学校図書館に専任専門常駐の学校司書を配置する請願を提出し、それが審議され全会一致で採択されました。このことは全市の図書ボランティア、去年は3,200人いるそうですけれども、大変皆さん喜んでおります。前阿部市長には毎年要望書を出して何度もお願いしてきました。さらに2年前には趣旨採択されたんですけれども、少しもこの2年間改善されませんでした。市民と市議会が強く要望して、また国も法を改正して常駐の司書を配置するように言っているのです、今度こそ具体的に進めてくださるように是非お願いします。隣の横浜でも進んでいますので、川崎の子供たちのためにも是非お願いします。

市長：ありがとうございました。

まず徳生さんの中学校給食についての激励、応援ありがとうございます。中学校時代は一番体のできる時ですし、特に食の乱れる時期でもあると思います。中学校給食を通じてしっかりとした食育をやっていくことは、私はすごく大切なことだと思っていますので、それを軸に中学校給食をしっかりやっていきたいと思っています。今日の午前中に、中学校給食の推進本部会議という庁内会議があり、どういう手法で実現させようかということをやりました。平成 28 年度中に川崎市立の中学校全校で給食ができるように今詰めた議論しています。せっかくやる中学校給食ですから、子供にとっても親御さんにとっても、誰もが喜ぶ中学校給食になるようにしてまいりたいと思っています。

櫻谷さんからは、有償ボランティア、シニア世代の事について、寺子屋も絡めてというお話をいただきました。寺子屋事業は、今年度は各区一校ずつ、まずモデル事業としてやっていこうということで、実は宮前区は今日一校、富士見台小学校で始まりました。3 日前の土曜日には中原区の小学校で第 1 回目の寺子屋が始まりましたので私も行ってきたのですが、平日の学習支援や土曜日の学習支援だけではない、もう少し地域の活力、皆様の力を貸していただいて子どもたちが学ぶ、また、教える世代・シニア世代も子供たちから学ぶというか、多世代の一つの交流の拠点となるようなものを作り上げたいと思っています。地域の寺子屋の提案については、教育委員会の方でしっかり受け止めていただいて、今モデル的に各区一校ずつ始めたところでございます。有償ボランティアという形でどうやっていくかという仕組みを、どうやって成功させるかを検討しているところです。自治会町内会の役員の皆さんをはじめ、いろいろなことを無償でやっていただいている方がいらっしゃるわけで、そういったところとどう棲み分けていくのかということが一つの課題となっておりますが、皆さんと議論していきたいと思っています。冒頭申し上げた総合計画の議論の時に、子育ての分野でも高齢者施策でも両方同じことが言われており、元気なシニア世代の皆様はやる気もあり地域に貢献したいし能力もある。ですから、この人たちの力をどう地域の中で使うかということでしたので、方向性はみんなそうだと思います。そこをうまく活用できる仕組み、受け皿を作っていきたいと思っています。ただしこれは行政が全部やるというよりも、一緒に作っていくという感覚でやっていきたいと思っています。

それから小松さんからは、教育福祉医療の連携、それから児童支援コーディネーターを拡充してほしいというお話でした。私も就任 8 ヶ月くらいになりますが、この間教育委員の皆様と学校を回っています。今まで教育委員会は教育委員会だけで回っていて市長は市長で視察に行くという形でしたが、これは良くない、やはり教育委員会の人たちと私と一緒に学校を視察して、何が課題でどうやればいいのかということも一緒に考えていこうという取組をしていく中で、児童支援コーディネーターの方々とも意見交換をしたり、現場を見せていただきました。児童支援コーディネーターも図書館の司書さんも大変効果が上がっており重要だと思います。他の政令指定都市の首長さんと話しますと、図書館司書は非常に効果があるとアドバイスしてくれる市長さんもいらっしゃいました。後は財政的な裏付けをどうしていくのかということですので、全体のバランスの中でしっかりと考えていきたいと思っています。

教育福祉医療の連携の話に戻りますけれども、今年 4 月から川崎市に地域包括ケア推進準備室というものを作りました。これは、子供から高齢者に至るまでケアが必要な全ての方々を中学校区くらいの小さな単位でケアができる、お互いが暮らしやすい地域を作っていく、といった仕組みを作っていくものです。国の政策でもありますが、都市部である川崎でもしっかり作っていこうというものです。地域包括ケアシステムとは、医療・福祉・介護などバラバラになっていたものをみんなでネットワーク化していこうという取組で、都市部の川崎で、川崎らしいものを作っていきたいと思っています。

それから伊藤さん、議会での請願の採択ということもあり、私も重要性というものは十二分に分かっているつもりです。その上でこれまで 13 年間にも亘って図書ボランティアをしていただいたことに対して、心から感謝申し上げたいと思います。図書館司書とボランティアのみなさんでやっていただく部分について、ボランティアの方の荷が過度に重くなっているのではないかと御指摘もいただいておりますし、繰り返しになって恐縮ですが財政の全体的なバランスの中でやってい

きたいと思っております。重要性については十二分に理解しております。

中濱さんからは小中一貫校についての話でした。小中一貫校はいわゆる位置づけがなく、全国でも稀に構造改革特区の中でやっていますが、先月政府の教育再生会議で小中一貫校を位置づけていこうという提言がされていますので、今後国の動向もしっかり見ていかなければいけないと思っております。しかし今、小中一貫校となりますと、A小学校とA中学校との連携となってしまいますが、だいたい公立の中学校はいくつかの小学校で一つの中学校区という形になっていると思います。それを小中一貫ということになりますと非常にバランスが悪くなってしまいますので、そういった意味では小中一貫という形ではなく、小中連携という形で今取り組んでいるところです。小中一貫校で、良い効果はあると思います。例えば中一ギャップだとか、そういったものもなくしていく効果もあると思いますが、小中一貫ではなく小中連携で今進めているところですので、もう少し拡充していきたいと思っております。以上です。

## B 福祉・医療について

**飯塚さん：**白幡台地区に住んでおります飯塚でございます。

特養ホームについてお伺いしたいんですが、すべてのホームの中で1番条件が良くて、かつ一番入りにくいと言われる特養ホームについて、具体的に、川崎市の中でホームの数がいくつあるか、入居者人数がどれくらいあるのか、入居条件、介護3以上でなければならないとかいろいろ言われておりますが、そういう条件がどうなっているのかと、一番大事なことは待機人数がどうなっているか、それから民間のホームに比べて一人当たりの介護者の数、これも民間よりずっといいのではないかと思うんですけども、そういうことがどうなっているのかと、川崎市としての今後の見通しはどうなっているのか、これは全て川崎市だけでなく国全体でも財政の問題とかがあって簡単にいかないものであるのは重々承知しているのですが、今後の見通しをお聞かせいただきたいのと同時に、子供やシルバーに優しい福田市政を是非お願いします。今までの中では、私は福田さんの行政は90点以上をあげていいのかな。特に中学校の完全給食をやっていたというの最高で、保育園の人数の解消についても努力しているようで、私としては大変期待しております。以上です。

**藤永さん：**潮見台に住んでおります藤永です。

聴覚障害者が宮前区の中でもたくさんいます。皆が本当に住みやすい環境を作って頂きたいと思っています。その中で2つお願いしたいと思っております。一つは、手話を言語として認めている市の条例ができつつあるんですね。そういうのを参考にさせていただいて、是非川崎市の中でも手話を言語として認めるような条例の検討をお願いしたいなと思っております。もう一つですけれども、私がちょっと心配しているのが、麻生区で遠隔の手話通訳のサービスが始まりました。政府の方でも、障害者の制度の改革推進本部会議の委員の半分以上に当事者がいたんですね。当事者、障害を持っている当事者の意見を聴きながらいろんな政策を考えていった、にも関わらず、川崎の麻生区の場合には、川崎のろうあ協会だとか情文センターに相談もなく進められたということを非常に残念に感じています。障害者情報支援法の中でも、手話通訳者の配置というのは、あくまでも手話通訳者そのものの配置を求めています。そういう意味でも、ぜひ御検討をお願いしたいなと思っておりますし、世代的にも市長と同じくらいなので、そういう意味でも個人的にも非常に期待をしています。是非お願いをしたいと思っております。よろしく申し上げます。

**小澤さん：**ろう協の宮前区の会長をしております小澤と申します。

ろう者の高齢者というのも非常に増えておりますので、ぜひ老人ホームに入れるように御配慮をお願いしたいと思います。もし災害が起きたときには、ろう者は耳が聴こえませんので、何か放送があったときにも全く聞こえません。ですので、ろう者のための災害マニュアルというものがあれば良いかと思います。放送があっても聞こえませんので、見て分かるようにボードに書いて頂ける

とか、そのような配慮をお願いしたいと思います。高齢の方が増えていらっしゃるのほうも同じですので、是非御配慮よろしくをお願いしたいと思います。

**市長：**飯塚さんのお話、今特養がどれくらいあるかということですが、川崎市内には50箇所、4,105床です。そのうち宮前区は8箇所483床です。待機されている方はおよそ5,000人です。そのうち今すぐ入りたい人は、だいたい3,500人です。これからますます高齢化が進んで、一定の施設整備はこれからも必要となってくると思います。一方で、先ほど地域包括ケアの話をしましたけれども、要介護になった方もなるべく在宅でというのが、いろいろなアンケートでもあります。それをしっかりサポートできるような地域でなくてはいけないというのが目指すべき姿だろうと思っています。特別養護老人ホーム、施設を作れば作るほど介護保険料に跳ね返ってまいります。施設整備をしっかり進めて欲しいという方と、一方で、もう施設整備は勘弁して欲しいと言われる方もいらっしゃいます。まさに地域ぐるみで考えていかなければならないと思いますが、おっしゃるように3,500人今すぐでも入りたいという方がいらっしゃる。それから、国の制度が厳しくなって要介護度3以上の中重度の方でないと特別養護老人ホームは入れないという方針になっていますので、今、転換期にきていると思っています。繰り返しになりますが、施設整備、特養も含めて、必要な部分は必要ですけれども、なるべく在宅の方に持っていかなければならないと思っています。

藤永さん、まず麻生区役所の遠隔の、iPadみたいなものですね。皆さん御存知ないかも知れませんが、麻生区役所にろうあ者の方が使えたり、あるいは外国語対応のために、手話、通訳という形で対応できるコンピューター画面みたいなもので、そこがセンターとつながって通訳をするという形になっています。実は御指摘いただいた事は毎回各区の車座集会で御指摘いただいていて、私も麻生区に見に行き説明も受けました。これは決して耳の不自由な方のためだけの機械ではなくて、今申し上げた外国の人たちにも対応するものですので、このパネルがあるから手話通訳は必要ないという考え方は一切ありません。ですからそのような理解をしていただければと思っています。この質問は過去6回くらいお答えしていますので、是非お仲間で情報共有していただければと思っています。手話言語条例の話についても過去6回くらい質問をいただいておりますので、これについても勉強させていただいております。

小澤さんから御質問で、災害時の時に非常に困るということですね。これは災害時だけにこだわらず、障害者差別解消法という法律ができたのは皆さん御存知だと思いますが、この法律には障害のある方に対して合理的な配慮がされなければならないという条文があります。何が合理的配慮なのかということをしっかり和詰めて整備していかなければいけない問題だと思っています。もう一つは、見かけでは分からない障害でありますので、先ほど言われたように、パネルに文字を書いて伝達するというのを私たち市民が知っていなければならないと思います。そのことはマニュアルにもしっかり書いていかなければならないし、みんなで共有していかなければいけないことだと思っています。障害のある方もない方も暮らしやすい町にしていくことが重要だと思っています。以上です。

## C シニア活用について

**本城さん：**こんばんは。犬蔵の本城と申します。

年金をいただく年齢になり子育ても終わって、時間的な暇だけは大変ある世代になりました。何か自分に出来る事はないかと探して、図書ボランティアを3、4年やっていますが、学校の図書ボランティアは若いお母さんが中心で、だんだん居心地が悪くなるんです。月に2回読み聞かせに行っていたのがだんだん減って行って、集まりがあって飲み会があっても、ごめんねとパスしてしまうようになって行って居心地が悪くなってしまいうのがありまして、そうすると市長がマニフェストで上げていらした寺子屋制度とか有償ボランティアが大変魅力的に聞こえるんですね。それなら何かできることがあるんじゃないかと思って。ただ気になるのが、有償ボランティアをどういうふう運営していくかというのは難しいのではないのかと思うんですよ。シルバー人材センター

のホームページを覗いてみたら、そんなに難しくない、それこそ荷造りをするとか何だとか、専門家がやるような職人さんの仕事もあるけれども、普通の人でもできそうだなっていう。その両方をどう兼ね合いをしていくのか教えて下さい。

**中村さん：**こんばんは。中村功です。私はシニアを生かすためのまちづくりについて考えたいと思います。

3つありまして、何をするかというと、教育はすでに始めているので、私は2つ目に芸術、3番目に国際交流を視点として挙げます。芸術の中では特に音楽。なぜかという、これは万国の共通語だからです。次に国際交流。これは、あと6年と2日後に迫ったオリンピックを見据えています。どうやってやるかというのですが、これは、ある程度ゆっくり時間をかけて、メルクマールを作ってやるべきだと。メルクマールとしては、先ほどのオリンピックもそうでしょうし、これから10年後の川崎市制100周年があると思います。後はやり方なんですけれども、連携がキーワードだと思います。連携というのは、この川崎市にあります2つの音楽大学、それからフランチイズオーケストラとの連携、それから市民との連携。それから2番目には、東京と横浜の中間ですから、そちらの市町村の知恵も借りてやると。それから3番目には、ヤングからシニアまでの連携。シニアだけを考えるとダメです。シニアというのは時間はありますけれども、体力は多少は衰えている。ヤングは知恵はあるけれどもお金は無い。真ん中の層はお金を持っているということで、連携してやるべきだということで、こういうことに関して、教育は大変素晴らしいと思いますけれども、芸術とか、国際交流という点で、シニアを含めた連携した活用をお願いしたいと思い、発言しました。よろしくお祈りします。

**市長：**まず本城さんの寺子屋の話からシルバー人材センターと有償ボランティアをどう整理つけるのかという話ですけれども、冒頭にも申し上げたように、非常になかなか難しい、そこをどうやって棲み分けていくかというのは、町内会自治会の話もしましたけれども、今整理しているところです。もうちょっとお時間をいただけたらなと思っております。シルバー人材センターのほうは、若干、軽作業というか体を使ったものが多いと思いますが、シニア世代の能力については、体を使ってという部分もあるかもしれませんが、もう少し知的なところもあるのではないかと思いますから、そういったところでどう棲み分けられるかというのをしっかり検討していきたいと思っております。

中村さんから、教育は分かったけれども芸術や国際交流でもシニアも含めた多世代で、というお話でした。まったくおっしゃるとおりです。音楽でも、今御提案いただいたとおり2つの音楽大学や東京交響楽団などと連携して様々な事業をやっておりますけれども、もっともっと裾野が広がる可能性は十二分にあると思っております。特にミュゼ川崎シンフォニーホールという世界的な価値を認められているホールがあるというのは一つの価値であるし、本当に超一流の部分を見ることができるといえるものもあると思っておりますが一方でさらに裾野を広げていく、質を高めていくことと裾野を広げていくこと両方をやっていかなければいけないと思っておりますので、もっともっと裾野拡大はしていかななくてはならないと思っております。国際交流についても全くそうで、先日もインターナショナルフェスティバルというのが中原区であって私も行ってきましたが、国際交流に関わっている方々が川崎市にはとても多くて、団体数だけでも100近くあったのではないかと思います。その方々と連携するといろんなことが可能になると思います。例えばアフリカに30年位前に海外青年協力隊で行った方というのが今でもその国と川崎市、あるいは日本との架け橋を繋いでくださっている方が川崎市にはいらっしゃる。こういう人材が川崎市内とても多いですから、こういう方々にもっと協力をしていただこうと思っております。さっきも私はJICAの人と話していたんですが、JICAでいろんな海外に行って、日本とその当事者との国との架け橋になってくださっている川崎在住の方と、同窓会じゃないけれど1回集まっていたいただいて、そこから生まれるものというのはものすごく大きなものがあるんじゃないかと先程お話ししました。点が線に面になっていく活動をこれからも盛り上げていきたいと思っております。個々で活動されている方はたくさんいらっしゃいます。これを更に広げていきたいと思っております。

## D 環境について

**奥山さん**：私はごく普通に、主婦のゴミ分別の素朴な疑問なんですけど、分別になってからプラスチックが非常に多いということに気がつきました。ただ、例えばマヨネーズとかケチャップみたいなものって、洗って綺麗にすればプラスチックですけど、中にまだ少し中身が残っていると生ゴミになってしまいます。みなさんどれくらいの方が分別しているのかなというのが私の素朴な疑問です。分別することによって市にこれぐらいの利益がある、こういう意味があって分別しているんですよということがどれだけの人が納得しているのかなという素朴な疑問です。それをもっと市民に広げてほしいというか、わかるように伝えて欲しいと思ひまして、今回応募しました。よろしくお願ひします。

**竹村さん**：有馬の竹村です。私は川崎における再生可能エネルギー事業についてお話をしたいと思ひます。

再生可能エネルギーというのは、太陽光発電とか風力発電とかバイオマスとか、そういう自然のエネルギーで電気を作ったり熱を作ったりするというものです。国際的にはもう毎年大体35%ぐらいの勢いで伸びておりまして、世界でいうと20兆円産業になっているんですが、日本ではなぜか遅れているという状況にあります。ですから、それをもう少し伸ばしていかなければいけないというのが私たちのテーマだと思うんですが、固定価格買い取り制度というのが2年前にできまして、メガソーラーばっかり出来ているんですね。メガソーラーというのは大きな土地が必要ですので、大きなお金を持っていないとできない。結局大きな企業がぼんと作ってその売り上げもぼんと持っていつてしまう。せっかく太陽がこの地域に落ちているのに、そのメリットは全然地域にこない。これを広げていこうということで、地域の再エネ事業の研究会というのを作っております。民間公共いろんな施設の屋根にソーラーをつけていこうということで、それをやるためには市の後押しが必要ということです。北部市場とか市営住宅、これは公共施設ですね、それからJRとか東急の駅、あるいは武蔵小杉の開発、そういったところに応援するために、局が縦割りになっているのになかなか単独で話をするも難しいので、市長さんから是非号令をかけていただきたいということで今日はお願ひに参りました。ありがとうございました。

**影山さん**：限られた時間ですので最初にポイントだけ申し上げます。テーマ的にはエコマネーを提案させていただきたいということです。そしてそのエコマネーとは何かということと、続いてその効果は何たることかと、その最後は制度の提案と、3点でございます。

まずエコマネーとは、このお金を環境に良いことをしてもらいそのために使う。たとえば地域で花を植えたり公園を清掃したりいろんなことがございます。その時なにかしらのお金が貰えればいいのかなと。先ほどより出ておりますが、そうした観点です。そして貰ったお金は宮前の農産物とか加工とかエコ商品サービスその他諸々に限定して使えたらいいのかなということで、それを宮前のエコマネーとします。その効果は2点でございます。第1点。今高齢者が外に出れば健康になって病気を予防できます。とにかく外に出る。それは健康寿命を延ばすことになります。今宮前区は市内で最も要介護者が少ない。非常に誇らしいことでございます。例えば、要介護老人認定者数を1号被保険者数で割りますと、15.6%という、川崎市で最も低い。さらにこれを伸ばすことができるということです。それから第2点は、外に出れば家の電気代が節約できるという、省エネになるということです。これは今大きな電鉄さんが横浜で実際に、電気代を節約した人に対しては地元の商店街の買物券を配布しています。最後の提案ですけれども、市長さんにぜひ個人組織団体で励みになるような表彰をして欲しい、その副賞としてエコマネーを差し上げて欲しいと思ひています。以上でございます。

**市長**：奥山さんからゴミの分別ということですが、昨年9月からこの宮前区も分別が細かく始まって、今8分別9品目でやっていただいております。おかげさまで、ゴミの量は確実に減っており

まして、一般ゴミでいうと、だいたい1割ちょっと減らすことができました。このことは、焼却場を新たに建築しなくても済むということに繋がってくるということで、この効果は非常に大きいと思います。新たな焼却場を作ることになると莫大な予算がかかり、それが税金になって市民の負担になるということですから。みんなの努力でゴミも減らし、捨てればゴミだけれど分別すれば資源という事をどれだけの市民の皆様が知っているか。しっかり広報をしているつもりですが、まだまだ伝わっていないということだと思います。毎回会議のときに言っているんですが、良いことをやっても市民の皆さんに伝わらなければ意味がないのだから、市民の視点にたつてどういう風に広報するかということをよく考えようと言っておりますので、しっかり改善していくところはしていきたい、広く皆さんに知って頂きたいと思っております。せっかくこうやって御協力いただいていることがどうなっているかという事を知って頂くことは重要だと思っております。ありがとうございます。

それからエコマネーの話、地域通貨ということですね。元気を増やして電気は減らすみたいな、非常に面白い御提案だと思いますが、その財源をどうするのか。エコマネーの話はその対価となる財源はどこから産んでくるのかということですね。私も初めて聞いた発想ですから、後ほどまた勉強させていただきたいと思います。環境の表彰制度については、川崎市は団体も個人も環境に取り組んでいるところについては表彰をさせていただいております。エコマネーについては予備知識は全くないものですから、勉強させていただきたいと思います。

竹村さんから再生可能エネルギー、メガソーラーばかりじゃなくもっと小型にということでしょうか、太陽光をもっと増やしていくべきだというお話でしょうかね。

**竹村さん：**もっと地域の屋根につけてもらいたい。

**市長：**この前世田谷区長と話をしましたが、世田谷は面白い名称を言っていました。ヤエネルギー。面白い名称だなと思いましたがけれども、屋根貸しをして、そこで事業者の人たちと連携して売電する。面白い仕組みだと思っております。これも検討の一つだと思っております。今公共施設は区役所や学校施設など70~80カ所の公共施設でパネルをつけていますが、今後の展開としてはそういうこともあり得るだろうと思っております。一方で、3.11以降、創エネの話、エネルギーを創ることが非常に話題になるんですが、一番重要なのは未だに省エネの部分なんです。まだ伸びしろがあって、そこをしっかりとやるのが創エネ以上にまだ重要だと思っております。いろいろな環境の専門家と話していても、やはり最近創エネの話ばかりになっているけれども、そもそも違うんじゃないかという意見があり、創エネ・省エネ・蓄エネ、この三つをバランスよくやっていくことが重要だと思っております。

## E 緑・農業について

**高木さん：**こんばんは。初山から来ました高木です。

川崎市は公園緑地ということで市民とのパートナーシップでやっていくということが決まっています。都市公園ではいろんな愛護会といった支援制度があるんですけども、実際里山という、もっと大きな森ではそういった制度はほとんどない。川崎市はまだ出来上がっていないのが現状です。我々のようなボランティア活動にある意味で任されているのが現状であって、それもなかなかマンパワーも少ない状況もありますし、まして金銭的なものとか、機材といったところの支援というのがまだまだないんですね。そういった意味では、宮前区はかなり大きな森、特に生田緑地の一部を持っていますから、新しい里山の風景を守っていくための支援制度、お金もそうですけれども、先ほどから有償ボランティアという形も出ていますが、新しい体制づくりというか支援制度を考えていただけたらありがたいなと思います。以上です。

**高久さん：**五所塚の高久です。



福田市長は今年の4月に向ヶ丘遊園跡地利用については、生田緑地にふさわしい市民に喜ばれる計画策定に向けて進めるとコメントして頂きました。私たちは向ヶ丘遊園に隣接する町内会として、非常に市長の言葉を心強く感じております。私たちはこの緑多き生田緑地内の遊園跡地には、震災などにより広域に渡って大きな被害が発生した場合に広域避難所となりうるような防災施設を備えたいいつでも安心して利用できる公園を熱望しております。それらを子供から孫の世代に引き継ぐことが私たちの責務と考えております。市長がすすめる最幸の街、これからもずっと住み続けたいと思えるような地域を私たちも目指しております。そのためには、この貴重な自然遺産といえるような跡地を、我々の事例を参考に川崎市が借りあげてほしいのです。それが困難な場合には50年の定期借地権を活用するのも1つです。また小田急自ら敷地を川崎市へ寄贈するような環境を作ることでも大事だと思います。いずれにせよ向ヶ丘遊園が閉園したのが2002年です。その当初から住宅開発をずっと目指してきた一企業に今後の計画を任せるのではなく、川崎市が先頭に立っていただきたいと思っております。私たちも微力ですが出来る限りのお手伝いをしたいと思っております。よろしくお願ひします。

**荒川さん：** 神木から来ました荒川と申します。

私は川崎市農業振興センターを事務局とする川崎農の新生プラン推進会議の市民委員を三年やりました。その時に川崎の農について、緑の空間の大切さを学んだことで、農家の応援をしていきたいなと思ひまして、それ以来宮前市民館から地域振興のいろんなボランティアをしています。それでやはり農地というのはコミュニティづくりにはとても欠かせないもので、今減少化が激しいように思ひます。宮前区には調整地域がなくて生産緑地がほとんどなので、防災、地球温暖化抑制、食料自給率の維持からも宮前の緑というのは宝物だと思いますので、農地の維持というのはもはや地主個人の問題ではなくなってきましたので、それを応援していく、私たちシニアのためにも、活動拠点づくりをしたいと思ひますので、何卒行政のお力をお借りしたいと思ひます。

**市長：** 高木さんから里山に対しての支援制度がないというお話でした。すみませんでした、勉強不足でそういうことになっているというのは知りませんでした。しかし、支援制度は金銭的なものだけではなく、形はいろいろあると思ひます。それから公的な資金だけでなく、どうやって民間資金を作り出していくか、生んでいくかという枠組みなども行政と一緒に考えていくという方法もあるのではないかとお話を聞いていて思ひました。高木さんの活動されている飛森谷戸って本当に素晴らしいところですから、なんとか次の世代に、その次の次の世代にもしっかりと残していきたい川崎の宝だと思いますから、そういうところがちゃんと維持できるような仕組みづくりと一緒に考えていきたいと思ひしております。

それから、高久さんからは生田緑地のところですね。小田急さんが計画を白紙に戻すというニュースを聞いて、突然で僕もびっくりしたんですが、川崎市と小田急の協定は残っておりますので、それに基づいてこれからもしっかりと小田急さんと話をしていきたいと思ひています。これも先程の里山と同様、川崎市にあるとても重要な緑地ですから、地域のみなさんとも相談しながらやっていきたいと思ひています。小田急さんからの寄付というのはなかなか難しいと思ひますが、小田急さんとも協定を踏まえて一緒に街づくりをやっていきたいと思ひています。

荒川さんから農地というのは地域の宝だという趣旨の御発言をいただきました。都市部における農地というのは、生産農家さんから見れば本当に生産の場所であると同時に、住民からすると潤いのある街の観点であったり、防災の面でも重要な土地であったりと、人によって農地をどう見るかによって多面性があると思ひますが、やはり農地としてしっかりと保全していただくためには、農業がしっかりと業として成り立つということが重要だと思うんです。今までも川崎市内の都市農業は付加価値の高いものが生産されてきたと思ひますが、先日も農業の生産者で特に若手の皆さんと意見交換会を持ちまして、これからどうやって都市農業における付加価値をもっと高めていくかということについて議論しました。そういったことによって、総合的に農地というのは守られていくものだろうと思ひています。お三方、里山にしても農地にしても、あるいはかなり面積を持っている緑にしても、いずれにしても重要な私たちの財産ですから、しっかりと守り育てていかなければならない

など思っております。

以上です。

## F まちづくり・交通について

**大槻さん**：菅生3丁目の大槻でございます。50年来の思いを90秒でしゃべるのは、市長の人生を90秒で喋るのと同じで大変なんですけれども頑張りたいと思います。

川崎市の都市計画マスタープランに関してですけれども、結論を先に申しますと、1つは、宮前区の交通を始めとしたインフラの整備ですね、これをぜひ進めていただきたい。2点目は、そのための予算が、宮前区の予算は1番低いというのは、宮前区は虐げられている。これはなんだということでありまして。マスタープランは非常にいいんですけれども、これを実現してもらいたいんですけれども、これは20年という計画になっております。これを10年以内に。さらにこのマスタープランの交通体系の中から川崎縦貫鉄道はいつの間にか消えております。一方では、先ほどあったミューザ川崎。これは川崎までの快速ミューザバスというのが運行されており恵まれております。あと予算は、宮前区は区別投資的予算ですね、これを集計してみても一番低いというのは一体どういうことなんだということなんです。

**恒川さん**：鷺沼の住人である恒川でございます。宮前区内の交通アクセスの改善について、2点要望いたします。

一つは、鷺沼駅から聖マリアンナ医科大学病院行きのバス便についてです。宮前区内唯一の拠点総合病院である聖マリアンナ。鷺沼駅から便が出ていません。地元で行ったアンケートでは、通院している方の64.3%が自家用車やタクシーで行っている結果が出ています。公共交通による交通アクセスの整備は、利便性の向上、高齢化対策や地球温暖化対策としても必要であろうと考えております。特に現在、菅生車庫と鷺沼駅との間を回送バスが51便もきている。これはいろいろ問題があるようですが、非効率でもう少し改善の余地があるのではないかなと考えております。第2点は交通不便区域の改善です。現在鷺沼駅、宮前区役所、宮前平を結ぶ新たな路線を検討していただいているようですが、向ヶ丘地区から宮前区役所に来る便がありません。そこで路線を若干延長してでも、向ヶ丘地区を迂回するなど、地域住民のニーズに合い、かつ、利便性の向上にも資する方向で御検討願えればと思っております。以上です。

**石井さん**：宮前平1丁目に住んでいる石井と申します。

表題が大げさになっているかもしれませんが、私は単純でございます、宮前平駅を利用しているんですけれども、私もここに来て30年、ここは御存知のように山坂の多い地区で、昔は足が丈夫になって坂もいいなと思っていました。先ほどの宮前区の老人の健康度は高いということの1つの原因かもしれませんけれども、ただ最近思うのは、私の1丁目まで高低差で十数メートルありますと、やはり途中で疲れるんですね。そういう状況下です。宮前平駅はちょうど尻手黒川を境に両方とも谷間になっております。私が思うのは、駅前に憩の場、休憩ができる場所が欲しい。東急さんの敷地が多いと思いますが、ただ川崎市のバスターミナルもあるから、うまく調整しながら、あそこに有名な対話という石像があるんですけれども、あの一帯をうまく開発、整備して、憩える場所、ベンチでもいいですからそういうものを置いて休憩できる場所がぜひ欲しいというのが私の希望です。ついでにそこには花を植えたりして綺麗にした方が、潤いがあって生きがいがある場所になるのではないかなというのが私の提案でございます。以上です。

**山本さん**：馬絹から来ました山本と申します。

最近宮前区にぜんそく患者が増えています。市からは補助金が増えているので御理解いただけていると思いますが、それに対する現状の認識と対策についてお伺いしたい。特に尻手黒川線の車のせいだと思うんですが、私の住んでいる馬絹交差点、渋滞は昔からですけれども、その改善策を

検討してもらいたい。特に今新聞沙汰でリニアが認可されて工事が始まると、1時間に80台のダンプが走るというような準備書が出されていて、それに対して市はちゃんとやれよという話を出しているんですけども、JR東海からちゃんとした回答が来ているのかどうかを聞きたい。特に梶ヶ谷の立坑のところは、工事用の排気ガスが0.05で、車用が0.05ということで0.06の基準の以下ですよという誤魔化しの評価書になっています。そういうことをしっかり認知して、それを市として改善させるまで認可しないでもらいたい。車じゃなくて貨物で運ぶよという認識かもしれませんが、そういう事は市民に直接関係する話なので、市でしっかりやってもらいたいと思います。よろしくをお願いします。

**市長：**まず大槻さんから都市マスタープランに基づいたものをどうやってこれから実現させていくのかという話ですけども、平成18年か19年くらいに作ったんですよ。先ほども申し上げましたように、今総合計画を新たに作っていますので、その中でしっかりと落とし込んでいくことが必要だと思っています。一方、都市マスに書いてあって実現できていないもの、課題になっているものは、どうしていくのかということを経査しないといけないと思います。そこを新しい総合計画の中でしっかりやっていくということだと思います。縦貫鉄道の意義については、重要だと思っております。一方で、今それをやるタイミングなのかということ、そうではないということですので、位置づけとしては必要だけれども今実行できる状況にはないという事です。

それから連動してくる、恒川さんからも同じように交通アクセスの問題、鷺沼から聖マリアンナ、これは私も宮前で議員をやっておりましたのでよく分かっていますし、最も重要な課題の1つだと思っています。これから高齢化率は非常に高くなりますので、病院に行かれる方というのは大変多くなってくる。そういった中で主要駅である鷺沼からはないということなので、これは大変重要な課題だと思って区長ともいろいろな相談をさせていただいておりますが、これは大変重要な課題です。地域の中に様々な御意見があって一つ一つクリアしていかなければならないことがあるということは恒川さんもよく御存知だと思いますが、いずれにしても最重要課題の一つだと思っております。しっかり取り組んでいきたいと思っております。向ヶ丘地区から市役所へのアクセスというのも、これも一昨日の市民検討委員会のところで、宮前区の方は住んでいるところによって非常に交通が便利だという方と不便だと言われる方のギャップがものすごく激しいですね。役所へのアクセスが非常に課題だという御意見も出ておりました。そういったことも踏まえて、この市民検討委員会の議論なども踏まえて総合計画を作っていくということですので、それも重要な課題だと認識しております。

それから石井さんから、山坂が多いので坂の途中で休憩所というか、ベンチというか。これはすごく気持ちがわかります。区役所の前の坂を登って行くと、やはりかなりお年を召した方、買い物用のビニールのバックを持って途中でふうっと息を吐いておられる方というのを私も見ますので、すごく気持ちはわかります。ベンチを置くのにはいろいろな規制があるんですね。幅員が2メートル以上なくてはいけないとか、安全性が担保されてなければいけないとか、子供達も通っている。それぞれいろいろな課題があってなかなか設置に至っていないという部分もあるんですが、課題としては認識しています。もう一つ駅のモニュメントは、議会でも質問を頂いたんですが、あそこは本当にバス停とモニュメントの境が非常に狭くて、僕もいつも狭いと思っています。宮前平から自宅に帰る時バスに乗るのであればあそこから乗る形ですので、こんな細い所しか通るところがない。東急さんの土地で、かつ東急さんと駅周辺を開発した事業者のみなさんで作ったモニュメントですので、そう簡単に撤去できるものではない。それぞれの思いがあるものですから。一方で、あそこをどうやって人が安全に通れるようにしていくかということは、東急さんにも伝えてあります。伝えてあって、そのことは東急さんも非常によく認識していますので、引き続き東急にはしっかり掛け合っていきたいと思っております。

**大槻さん：**予算のことは、宮前区が虐げられている。

**市長：**例えばどこの地域から税収が上がっているという話をしだすと、例えば川崎区はもっとあ

っていいじゃないかということになりかねない話なので川崎市全体のバランスを考えていくことが必要だと思います。宮前区だけが足りないとか、各区ごとに払った税金に対してどうだということではない。バランスよくやっていきたいと思っております。

山本さんのぜんそくについてですけれども、私も最近びっくりしたのがあります。過去40年間くらい川崎市はぜんそく患者と公害のデータをずっととっていて、1ヶ月くらい前にその集計データを見せてもらったんですが、今までの常識を覆すような話でびっくりしていて、この話はちゃんと精査しなければいけないのですが、公害の環境基準が改善されるに従って、逆にぜんそく患者は増えているという話なんです。この40年間の患者数をプロットしていくと、例えば麻生区だと、この5年間くらいで3倍4倍にぜんそく患者が増えているんです。一方で環境基準はどうなのかというとそんな事はないわけで、今までのぜんそく患者と大気汚染問題との因果関係というのが、もしかしたら今までの常識を覆すかもしれないというデータも出てきて、これは川崎市の生データの話ですから、しっかりと因果関係を検証していかなければならないと思っております。馬絹の渋滞は信号が感知式に変わって少し緩和されているというデータを警察からもらっていますが、引き続きいろいろな対策を講じながら渋滞対策をやっていかなければならないと思っております。それからリニアの話もありましたけれども、市が持っているリニア建設に関しての権限というのはそう多くありません。その中で言うべきことを言うということで環境対策についてJR東海に対して意見を言っています。引き続き住環境に極力影響することがないようにこれからもJR東海に対して要望していきたいと思っております。

以上です。

## G 個別意見

**平井さん：**宮崎に住んでおります平井と申します。町内会長です。

今年はいちこちで土砂災害が起きました。国際的な地球的な異常環境というんですか、宮前でうちの町で土砂崩れが起ったんですよ。この時、消防署だとか警察のありがたみを感じました。それから宮前区の危機管理室は非常によく動いていたということを知りたいと思います。その危機管理室から町内会館を一時避難所として使わせてくれないかということで2日ほど提供していたわけなんです、その日はアドレナリンが噴出してたから冷静でいられたんですけれども、翌日はへろへろですね。慣れないことをやっていると本当にあたふたします。そのことの経験があるので、その一部始終を町内会の会員に報告したんです。そのまとめたものを、他の人の参考にもなるだろうと思ってお配りしたんですが、はしごを外されてしまいました。この車座集会は良い事だから続けた方がいいと思うんですが、今後運営の提案としては、A4 1枚ぐらいの発言の要旨レジュメを廊下のところに並べておいて自由に持っていけるようにしたらどうかな。

**茂田さん：**5丁目の茂田です。写真を持ってきたんですけれども、写真を見れば一目瞭然なんですけれども、一応読みます。マンションの出入り口の水路、鉄の扉の水門についてです。

私たちの家の前の道の向こう側に水路があり、4mから5m位の鉄の扉、水門があります。鉄の水門の開閉について、約27年間長い間扉のことで苦しみ、神経を使って水害から守るため水門を私が守ってきました。私たちが住んでいるところはすり鉢状の状態になっている地形で、四方八方から水が短時間で集中してきます。大雨が降ると5分から15分ぐらいで水路は濁流、鉄砲水となってきます。この時鉄の扉が開いていると私たちが住んでいる地域は襲われ、私たちが考えていた危険な状態となってしまいます。大勢の人たちが住んでいるところです。しかし、ワンルームマンションが建設されたため、高さ1mぐらいのコンクリートの壁で守られていた状態でしたが、約28年くらい前に水路側に濁流が出るにもかかわらず、市長はコンクリートの壁を壊して橋と扉を許可してしまいました。マンションの住人の関係者の人は鉄の扉を開けっ放しの人も多く、私が扉を開いているときは閉め、閉めない人には私は注意し、長い間いろいろなことがありました。どうか市長、市長が許可した危険な水門を1日も早く安全な扉にして水問題を解決してください。今まで

土木下水道その他の役所に数え切れないほど行きましたが、この問題は解決に至っていません。写真および水害のビデオを見てください。市長、よろしく申し上げます。

**花谷さん**：川崎市の水道は第8期にわたる拡張工事から維持管理時代へと移っております。私は宮前区に住んで50年近くになります。移動したその時に、東京都から宮前区に引っ越してきた方がおっしゃいました。それは東京砂漠から逃れたことや、川崎市は毎日ゴミ収集が行われている、このことは本当にありがたい、という言葉を残されました。バスを待っている時間帯でのことでありました。今日は3つばかり課題を持ってきたんですが、1つに絞ります。まず宮前区内に応急給水施設は19カ所ございます。これで足りるんだろうか。わたしは足りないと思っております。当然増設するためには財政問題が絡みます。東京都はすべてこれの財源を一般財源でまかなっていません。私は市から1戸当たり50円のお金を還元されました（※注：行財政改革における還元措置として27年度末まで水道料金を1世帯月額50円軽減）。そんなことを含めて、市長の感想をお聞きしたいというのが私の要望です。

**市長**：平井さんにおかれましては、先日の土砂崩れの時に、町内会長として大変なご尽力をいただきまして本当にありがとうございました。心から感謝申し上げます。区長からも報告を受けておりますけれども、夜中の1時半に平井さんの所に電話して会館を開けてくれということで、本当に無理難題をお願いし快く活動していただいたことに心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

災害対策はこれから本当にしっかりやっていかなければならない。あの子の記者会見でも聞かれましたが、よう壁が崩れることは今後もある話で、今は使わない素材で昔はよう壁を作っていて、ずいぶんもろくなっている所がすごく多いのではないかと思います。そういったところに高齢者の方が住んでいることが多くて、これから新たな投資をするのが非常に難しいということもありますが、一方で、市で防災対策をする、よう壁をする補助制度というのがあって、そういうこともしっかりと市民の方に御案内しながらやっていきたいと思っております。個人の資産の部分なので全部が全部をとということにはいきませんが、こういった助成制度を活用していただけるように周知徹底をしていきたいと思っております。それからレジュメを置いたらどうかというお話もいただきましたけれども、これは今年1年はこういったやり方でやりながら、次に向けてどういったやり方が本当にいい区民車座集会になるのかという改善点をいろいろな方からいろいろな方法をいただいておりますので、そういったものを勘案してより良いものにしていきたいと思っております。

茂田さんのお話ですが、お話の中からはあまりイメージがつかないので、後ほど資料を拝見してお答えをさせていただきたいと思っております。かなり個別具体のお話のような気がいたしましたので、また後ほどとさせていただけたらと思っております。

花谷さんからは応急給水施設のことでよろしいでしょうか。これは川崎市全域、750メートルの範囲に1カ所の応急給水拠点を整備しておりますが、それが十分かという話になりますと、まずそこまで今やっているということですので。今後についても、災害時の水をどうやって確保していくのかということ、しっかりと取り組んでいきたいと思っております。

以上です。

**篠澤さん**：篠澤です。犬蔵に住んでいます。いくつかのボランティア活動しております。その中でいろいろ頭に来ることがいっぱいあるのですが、今日はとても柔らかい発言を1つ選んできました。

先ほどから見ていて、とても笑顔が素敵な市長さんなのでお願いしたい事はただ1つです。市長さんの素敵な笑顔職員たちに分けてください。そして日々職員が笑顔で仕事ができるようお願いいたします。これだけなんです、理由は、4、5年前から区役所内が暗くなりました。30周年前後くらいだと思います。職員同士ですら本音は言えないと何人からも聞いています。ずっとそのまま引きずっているようですが、ではなぜ職員に笑顔が大切かといいますと、職員の仕事の第一は、市民の絆を作り深めることだと私は思うからです。例えば東日本大震災の後地域の絆が大事だと被災

者から発せられたとおりで。私が絆を大事と言えるのは、私がまだ地域活動の何たるかを知らずにいた頃、20年くらい前だと思んですが、ここの職員達から地域活動のイロハを教わりました。いろいろな活動家も紹介してもらいました。そこで地域の絆に、その方たちとの絆に助けられて今の私があります。私は今胸を張って自分の自己紹介は地域活動家だといえます。なぜ区役所の中が暗くなったのか、その事情はわかりません。でも市民として以前と違うと感ずることが出来るのです。素敵な笑顔の市長さん、どうぞその笑顔を職員に分けてあげてください。職員が笑顔で仕事をできますようにお願いします。

**田淵さん：**有馬から来ました田淵です。私は川崎にきましてからちょうど7年目でしょうか、まだ市民でもなければ区民でもない、住民に近いところにいるんじゃないかと思えますけれども、今回これから死ぬまでいる街づくりのために、一言提案をさせていただきたいなと。

私の話はここでは個別意見の中で商店街の活性化となっておりますけれども、実際は、まだ自分で働ける元気があると思って働き場所を探したんだけど、一向にやはり、この界限ではボランティアはいくらでもあるけれども、それ以外のものはない。そういう最中に新しい市長さんになって寺子屋を設立するとか、有償ボランティアをやるとか、そういう風になってきましたので、これはいいチャンスだと。私自身が簡単に考えたのは、この有償ボランティア制度と寺子屋をセットにするべき。そうすると働きたい老人達はそこの運営を任せられ、新しい労働力として使えるんじゃないかと、そういう考え方。それをできればシャッター街が増えた商店街で、生涯学習でないような話をやるような、商店街大学のようなものを作ってやるのも1つの手じゃないかな。是非もう一度私のアイデアをどこかの時点で確認させていただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

**中村さん：**鷺沼から来ました中村です。よろしく申し上げます。私は環境のボランティアをやっているんですが、30年近く前に地域振興課と顔見知りになってお世話になっております。長い間この問題についてクエッションマークがあったので応募しました。

助成金はどのように振り分けて皆さんに配られているのか。皆さんの血税がフェアに配られていないんじゃないかと。一方にはずっといって、名前を変えて頂いたりしている方もいるみたいですが、中にはイベントもやらないのに嘘をついてイベントをやったということで助成金を受けているのも事実ありました。犠牲者は私です。私たちはボランティアでやっているのだから、お金のことでですから、ぜひ聴いていただきたいと思いました。ただそれだけです。

**市長：**篠澤さんから職員もちゃんと笑顔ということでもありますけれども、常々職員に言っているのは、自分たちがどう見られているのかということについて深く意識を持とうということです。私は市役所におりますけれども、市民の皆様が市役所に来られるという事はほとんどありません。市民のみなさんが市を意識する場合、区役所がほとんどですから、区役所に来た時に対応が悪かったりすると市はどうなっているのかということになりますから、市の看板を区が背負っていると言っても過言ではないので、そういうつもりでは是非お願いしたいと思っております。宮前区においては野本区長を中心にしっかりやっていきたいと思っております。誰がいい誰が悪いということではなく、これは区役所あるいは市役所全体としての問題です。市民の立場に立って物事を考えるという意識はこれまでもやってきたと思いますが、まだまだ改善するところがあると思っておりますので、その意識を持ってやっていきたいと思っております。

田淵さんから、シニアはもっと働けるのでボランティアじゃなく有償ボランティアと寺子屋をセットでというお話をされましたけれども、それこそ幸区の市民検討会で、シニア世代がさらに上のシニア世代を助けるために働くんだけ、それをビジネス化するんだという御意見が出て、そこに多くの賛同を得ていました。日本で老老介護という非常に暗いイメージが定着していますが、見方を変えると、すごく長生きで働ける人たちがシニア世代にはたくさんいて、その人たちが困っているさらにシニアの人たちを助けることができる、あるいはそれをビジネスにすることができるという非常に明るい側面もあるわけです。そういった形に転換できる環境を作っていかなければならな

いと思っています。これは私の発想ではなく市民のみなさんから発想され、シニア同士でビジネス化してさらに高齢者を支援するという話が出てきた事は、僕は素晴らしい発想だと思っています。ソーシャルビジネス、社会的起業に関する講座を専修大学に持っていただいて市と連携してノウハウをもっと広げていこうという取組をやっていきます。そこで学ばれた方がさらに他の団体を応援したりという『繋ぎ』をやって下さっていますので、ぜひ田淵さんも機会がありましたらそういったところに参加していただくのもいいのではないかと思います。

中村さんからの話は、助成金について不正あるいは不公平なところがあるのではないかとということですが、おっしゃるように税金の話ですから、しっかりと執行されるように、執行したものに對してのチェックはしっかりとやっていきたいと思っています。以上です。

**永野さん：**こんにちは。永野です。有馬9丁目に住んで30年になります。今日私の提案ですが、住宅政策とかまちづくりにコレクティブハウジングの仕組みを取り入れたらどうかということです。

コレクティブハウジングというのは、普通のマンションとかアパートの建物の中に共同で使える広いリビングルームとかキッチン、それから談話室とかキッズルーム、そういったものを持った建物です。そして個人の尊厳とかプライバシーを優先して、多世代で暮らすということで、子育てとか高齢者の見守り、それから買い物や食事作り、そういった暮らしの一部分を共同化しようという、そういった住まい方です。共同化することによって各家族が毎日行っていた家事労働が減るわけですね。そういった自由時間を自分の自由に活用する、合理的な暮らしを手に入れることができる。それから多世代が多くの方を共有するわけですから、安全とか安心、それから災害時の助け合いもスムーズにできるようになります。北欧スウェーデン、オランダなどではもう30年前から、日本では10年前に荒川区で出来て、今東京都で4棟あります。ぜひ、今市営の有馬団地が改修になりますね。そこに是非コレクティブハウスの仕組みを入れて、若い人をどんどん入れて多世代で暮らせるような、そういったものを是非やって頂きたいと思っています。そしてゆくゆくは街に広げて、街の中でやっていきたいと思っています。私はあと10年しか生きられません。皆さんに看取られながら在宅で死にたいと思っています。よろしくをお願いします。

**清水さん：**宮崎台から参りました清水です。よろしくをお願いします。

私は平和と人権の企画委員を10数年やらせていただいております。これからも続けられるように予算の確保をしっかりとお願いします。それから音楽が好きで、音楽のまち川崎だから音楽ということではなくて、昭和20年の空襲の最中、外堀と内堀の間がまだ燃えている時、日比谷公会堂へコンサートを聴きに行ったりしておりました。出演者もステージ服がなくてモンペ姿でバイオリン弾いたり、そういう時代でした。音楽は本当に慰めになってとてもいいんですけども、音楽ということだけだと非常に抽象的で、戦争になると、若者を戦地へ追いやる、死に追いやる、あっちに行って死ねという音楽が次々と出てくるわけです。それをなかにし礼さんがNHKの小冊子で書いていますけれども、なんであの頃そういう戦争を賛美するような音楽を作った人たちが戦争犯罪にならないのか、私は絶対そういう時になってもそういう音楽は作らない、となかにし礼さんははっきり書いておりました。だからやはり平和ということが一番。今皆さんが素晴らしい意見をいろいろ言ってくださいましたけれども、平和でなくちゃ全てがダメになってしまうという事で、平和と人権をしっかりとお願いしたいと思っています。

**大槻さん：**有馬に住む大槻と申します。

一般市民として福田市長就任9ヶ月、市民としての感想は、これまでの市長とどう違うのかということだったり、顔が見えないという風に私は思います。公約の1丁目1番は待機児童の解消、中学校給食の導入としておりますが、政令市の市長の優先公約としては、大変失礼ながら志が低いのではないかと思います。待機児童については、横浜の例でもわかるように、一時的にゼロとなっても保育が保育を呼ぶといいますが、保育サービスが保育需要を呼ぶというたちごっこで、一時的に減らしてもあまり意味がないと思います。それと給食についても、政令市の首長の最優先公約と

してはやや違和感があると思います。一方で市長は1月の新聞のインタビューで、記者の地域を支える経済政策が見えない、福祉偏重ではないかとの質問に対して、このように答えています。それは誤解である。成長戦略と福祉の向上は車の両輪であり、財源抜きで福祉を語れないのは明らかだ。ただ公約で待機児童と中学給食を真っ先にやると宣言した以上、そこから先に進めない事はわかってほしい、とおっしゃっております。スケールの大きい夢を語る政治家であってほしいと思っております。今後3年あまりで何を成し遂げたいのか、市長としての目標、夢をお聞きしたいと思います。

**市長：**永野さんからのコレクティブハウスのお話ですね。これは私もNHKの番組だったかで見ましたけれども、本当にいろいろな世代の、身内でない方たちが集まって共同で住むという形、一つの新しい住まいのあり方ということで、これはすごく意味があるなと感じました。最近住宅関連や不動産関係の人とお話することが多いんですが、こういった多様な住まい方についてのニーズは非常に大きいと言っていて、こういうものは徐々に増えてくるだろうという話をしていました。それはおそらく民間ベースで進んでいくのではないかなと思います。やはり需要と供給の話でありますから、こういった多様な住まい方というのが出てくれば住宅メーカーや不動産、こういったところから派生していくものだと思いますし、こういったものが出来たら是非こういう住まい方もあるんだという、普及啓発というか、広報していくというのは行政の関わり方としてあるんだろうなと思っております。本当に教育的効果というか、多世代で住むことで、シニア世代が子育て中のお子さんをみたりですとか、あるいはお母さんは忙しいけれど一緒に住んでいるおじいちゃんが勉強教えたりとか、いろいろな副次的効果がたくさんあるんだろうなと思っております。それがいいと思う人と悪いと思う人があるので、まさに多様な住まい方の一つの手だと思いますので、民間で進んでいけばいいなと思います。

清水さんから平和の大切さということについてお話がありましたけれども、まさにそのとおりです。平和なくして何か生むものはないわけでありますから。今年の5月、川崎市の中原区にある平和館の展示物をリニューアルしました。戦争だけでなくあらゆる人権侵害というようなものもしっかりと理解していただく非常に良い展示物になっているなと思っております。子供さん達だけではなく、大人も、私も見て思いましたけれども、非常に意味のある企画になっていますので、是非多くの方々に見ていただきたいと思っております。横田めぐみさんの常設展示も引き続きやっていますので、こういった人権侵害についても、是非川崎市民には知っていただきたいと思っております。

大槻さんから公約の志が低いという御指摘をいただきましたけれども、私が申し上げているのは、安心のふるさとづくりという、まさに市民サービスの提供です。今日もいろいろな話がありましたけれども、いろいろなサービスを提供していかなければならない、そういったニーズがある一方で、それを支えていく財源をどうやって捻出していくのかということ、やはり力強い産業都市という、この両輪をバランスよく回していくということが持続可能な社会を作っていくことだと思っております。重要度というより、短期・中期・長期でみて、まず緊急性が高い分野で、待機児童あるいは中学校給食ということを申し上げました。待機児童もおっしゃるようにゼロにすることを目的化してはいけないと思っております。繰り返しですが、今政府も女性の社会進出に対して非常に応援団ということになっておりますけれども、こういった社会を作っていかなければならないと思っております。そのための一つの政策として待機児童対策もある。待機児童をゼロにすることが目的化すると、おそらくいつまでやってもきりが無いということになるんだと思います。しかし、きりが無いほどまだ女性の社会進出というのは非常に限られている。世界の国々のジェンダーギャップとありますが、男性と女性がどれだけ社会進出にギャップがあるかということ、日本は全世界の中の103位とか104位です。こういったギャップをどうやって埋めていくのかというのは、国もやっているし、現場を持っている市民生活に一番近い私たち自治体のところでやるべきことをしっかりやっていく。そういう大きな目的のために待機児童対策というものがある、こういう柱建てになっていると思っております。産業政策は、今年5月に川崎は国家戦略特区という形で選ばれました。こういった契機に、オリンピックもありますけれども、これから力強い産業都市として、とにかく市内企業がどんどん活躍して雇用が生まれるということがない限りいろいろなサービスの提供はないわけですから、持



続可能な川崎市というものを作るために一生懸命頑張っていきたいと思っております。  
ありがとうございました。

### (3) 総括

時間を大変オーバーしてしまい、私の話が長くて皆さんの質問時間が短いというのは怒られそうですけれども、これまで一巡しました。先ほど平井さんからお話あったように、もう少しこうした方がいいのではないかというお声をたくさん頂いております。今日は傍聴の皆さんもかなり多く来ていただいておりますので、傍聴者の皆さんからも是非こういう風にしていった方がいいという御提案をいただいてさらに良いものにしていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

今日は本当に多様なテーマで多様な御意見をいただきました。このように川崎にはいろんな課題もあるし、逆にいろいろな夢もあると思いますので、住民参加がないところに良い街づくりは絶対出来ないと思っておりますので、これからも主体的に街づくりに関わっていただきたいなどお願い申し上げまして私からのお礼の御挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。